

2019年度 第4回 総会

◇日 時：令和2年1月30日（木）

◇場 所：上伊那教育会館講堂

1 開 会

2 上伊那教育会の歌『仰望』

3 会長挨拶

4 議 事

- (1) 第1号議案『平成31年度省エネルギー投資促進に向けた支援補助金（エネルギー使用合理化等事業者支援事業）』及び『平成31年度電力需要の低減に資する設備投資支援事業費補助金』の運用方法の承認に関する件（唐澤事務局長）
- (2) 第2号議案『特定資産取得・改良資金』に係る支出の変更の承認に関する件（唐澤事務局長）



第1号・第2号議案は承認された。

5 報 告

- (1) 信濃教育会常任委員会 報告（林 会長）
- (2) 上伊那教育会理事会 報告（林 会長）
- (3) 信濃教育会臨時総会 報告（原 常任委員）
- (4) 県外教育関係機関研修報告座談会 報告（原 常任委員）
- (5) 「教育会館維持修繕引当資産」に係る定額式定期積金の満期に伴う定期貯金への移行と当面の定額式定期積金の扱いについて（唐澤事務局長）
- (6) 「特定費用準備資金」の保有に係る関係団体からの負担金の受領について（唐澤事務局長）
- (7) 第38次 日中友好長野県教育者訪中団 報告（向山富士夫会員）

6 協 議

- (1) 「あり方委員会」答申について（高嶋 常任委員）
- (2) 「未来継承委員会」答申について（高見 常任委員）
- (3) 令和2年度に向けた上伊那教育会諸事業の改善・充実に関する意見・要望等について（堀米 幹事長）

7 諸 連 絡

- (1) 令和2年度教科等教育研究会の発足に向けて（原 常任委員）
- (2) 研究紀要41集配布について（柳田 常任委員）
- (3) 令和2年度教育関係年間計画の作成について（堀米 幹事長）
- (4) 旅費の精算について（唐澤事務局長）
- (5) 信濃教育会災害見舞金事業について（田原克彦会員）

8 閉会の言葉

上伊那教育会 林 武司 会長 挨拶

3学期も一ヶ月を過ぎようとしています。2019年度の授業日数も三十数日となってしまっています。そんな中、代議員の皆さんには、本総会にご出席いただきありがとうございます。

1月には、上伊那教育会にとって、大きな事業が二つありました。

一つ目は1月18日に行われた授業研修会です。授業研修委員の先生方が、辰野中学校、K先生の学級の日々の記録や授業実践、ビデオ等をもとに、Yさんの育ちを見つめてきました。

その成果を、K先生にまとめて頂き、発表して頂きました。そして、その報告を基に、参会者が分散会に分かれて語り合ったり、一年間指導していただいた北原和俊先生よりまとめのご指導を頂いたり、福井大学の松木健一先生より、K学級の実践に関わる講演を頂いたり、とても内容の濃い研修を行うことができました。子どもをしっかりと見つめ、そしてそれをもとに授業を行ったり関わりをもったりすることの大切さを痛感させられました。また、参加した先生方から、子どもをよくみるということは大事だという意見、そしてこれからも子どもをよくみていきたいという意見を、たくさんいただきました。先生方とともに貴重な実践にふれ、一緒に学ばさせていただくことができ、心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

二つ目は、1月25日に行われた郷土研究部の研究発表会です。郷土研究部専門委員の先生方が1年間かけて研究してきた成果を発表してくださいました。それぞれの先生方の専門性を生かした発表は、本当に興味深いもので、価値ある発表だと思いました。それぞれの先生が一年かけて行ってきた、研究のたまものであったと思います。大きな刺激をいただきました。

上伊那は明治以来、研修をとっても大事にしてきている地で、この二つの事業においても、根底にはそれが脈々と流れていることを感じました。そして、自ら求め、ともに歩むそんな一年間になっていたのではないかと思います。

さて、上伊那教育会は、来年度、公益社団法人となって9年目を迎えます。教育会や社会の情勢等の実態に即し、さらに事業内容の変革に手を着けていく必要を感じております。教育会事業も単なる踏襲から脱却し、今後の教育会を自分たちの手で創り上げる、そんな気概をもって、「会員の会員による会員のための教育会」を構築していくときであろうと思います。

本日の協議では、代議員の皆様から、教育会に寄せる願いや、改善の方向など、忌憚のないご意見をいただき、活発な協議をお願いしたいと思います。会員の皆様の声をしっかり受け止め、来年度の変革につなげていきたいと思っております。

本日の協議の後、2月7日の理事会を経て、次回3月3日の総会には、令和2年度の方針と事業計画案、予算案をお示しし、ご承認をいただき、そんな運びとしていく予定です。何とぞ活発なご意見を願いたします。



※ 下記は、一部抜粋です。詳しくお知りになりたい方は各校の代議員の先生が詳しい資料をお持ちですので、そちらをご覧ください。

議 事

議案2本を一括上程し、質疑応答をそれぞれ一括して行い、個別採決を行う案を提案

- 1 第一号議案 「平成31年度省エネルギー投資促進に向けた支援補助金（エネルギー使用合理化等事業者支援事業）及び平成31年度電力需要の低減に資する設備投資支援事業費補助金の運用方法に関する件」（唐澤事務局長） ※別紙資料参照
- 2 第二号議案 「特定資産取得・改良資金に係わる支出の変更の承認に関する件」（唐澤事務局長）
※別紙資料参照※質問・意見

なし

※採決

第一号議案、賛成多数と認められ、全ての議案は承認された。

第二号議案、賛成多数と認められ、全ての議案は承認された。

報 告

- 1 信濃教育会常任委員会報告（林会長）
3と重なるため、臨時総会報告で代える。
- 2 上伊那教育会理事会報告（林会長）
 - ・ 1月7日第5回理事会が行われ、本日の議事の第1号議案、第2号議案が承認されている。
 - ・ あり方委員会、公益法人未来継承委員会の答申書が承認されている。
 - ・ 各団体からの申請のあった令和2年度の助成金の金額が決定しているので報告する。
- 3 信濃教育会臨時総会の報告（原常任委員）
 - ・ 12月2日に第3回の議員総会があった。台風19号被害に対して、手続きをできるだけ簡略化して災害見舞金の円滑な支払いを行うことになった。
 - ・ 全県研究大会の成果と課題として、今年度午前のみ参加者が多かった。調査を行う。全日参加が原則。
 - ・ 増税と収入財源減額を含めて約500万円超す赤字増額が見込まれる。雑誌「信濃教育」の値上げを行う。
 - ・ 信濃の国探訪が大変好評であるので2巡目に入る。参加者増を。
 - ・ 道徳資料集第6版を各校でそろえて欲しい。代議員は校長と相談を。
 - ・ ふるさとの大地23号の活用を。伊那中の実践が掲載されている。
 - ・ 後藤会長より、教員自身が働き方改革について考えて議論して欲しいとのこと。
- 4 県外教育関係機関研修報告座談会（原常任委員）
 - ・ 10月28日に行われた。参加者71名。各校から寄せていただいた意見・要望のなかには、これまでのような一連の研修システムがよいとの意見が多数あった。
 - ・ 敷居が高いと思われたが発表がわかりやすい等、好評だった。
 - ・ 来年度の要望として、仰望の日に発表した方がよいというものもあった。
 - ・ 若い先生方の参加が望ましいという声もあった。
 - ・ 学校づくり、授業づくりについてよい研修であった。



5 教育会館維持修繕引当資産に係わる定額式定期積金の満期に伴う定期貯金への移行と当面の定額式定期積金の扱いについて
(唐澤事務局長)

- ・ 当面の定額式定期積金の扱いについて、教育会館等改築の資金は十分足りているので打ち切る。



6 特定費用準備資金の保有に係わる関係団体からの負担金の受領について (唐澤事務局長)

- ・ 特定費用準備資金をこれからも積み立てていく。5年後、10年後の資金計画がはっきりしたところで、負担金を受領する。計画は年度内作成予定。4月以降受領していく。

7 第38次 日中友好長野県教育者訪中団報告

(向山代議員・赤穂中)

- ・ 2019年10月25日から11月2日まで第38次日中友好長野県教育者訪中団として訪中した報告。



協 議

1 「あり方委員会」答申(高嶋常任委員) 諮問①～④ 別紙答申書の通り

(1) 三大研修のあり方について

- ①会員のニーズにあったより魅力的な事業にするために、研修の意義や価値を会員に丁寧に伝え、参加意欲を高める努力をすることが望ましい。また、運営のために、会員の負担が過度にならないように改善の方向を検討していくことが望ましい。



(2) 「県外教育関係機関研修」について

- ①日程については、7月初旬に実施する方向が望ましい。
- ②人数については、20名程度が適当である。
- ③費用の個人支払金については、来年度も現状10,000円のままとする。
- ④広報活動を積極的に行い、参加意欲を高める努力を継続していきたい。

(3) 各種資料のまとめについて

今後も、データベース化を図ったり、上伊那教育会のHPに掲載したりする等、有効な活用の仕方を考えていくことが望ましい。また、研究したものが埋もれてしまわないように、さらに広報活動に力を入れ、周知や活用の充実を図りたい。

(4) 雑誌「上伊那教育」について

多くの会員が、「読みたくなる」雑誌であると感じ、継続を願っている。更に会員の声を聞きながら、掲載内容を見直したり、工夫を加えたりしながら年2回発行を維持していくことが望ましい。また、広報としての意味合いとともに、研修及び会員交流の場としての職能研修事業であることを再確認し、その役割について広く会員に伝えたい。

2 「未来継承委員会」答申(高見常任委員) 諮問①～⑤ 別紙答申書の通り

(1) 平成30年度の未来継承委員会よりの答申「公益法人としての財務・会計の健全化、諸事業推進に当たり、歳入額に応じた事業の見直しについて」が、本年度どのように生かされているか検証するとともに、教育会各種委員会の事業内容や組織の見直し等についての検討。



- ①郷土研究部専門委員会の研究調査費については、予算等が昨年度と比較して大きく超えていないことをふまえ、共同の経費を含めて一人当たり上限2万円とし、班ごとに申請書を郷土研究部長に提出して確認・徹底することが望ましい。
- ②郷土研究部専門委員会予算案及び決算については、公益法人化の経緯を踏まえ、常任委員会で説明し、理事会の決議及び総会の承認を得る必要がある。
- ③各種委員会の人員削減に伴う活動の状況については、本来の目的を明確にし、引き続き活動内容を注視していく必要がある。特に教育課程研究協議会における授業研究に深く関わるとともに、午後の協議において研究発表等活動の充実を図ることが求められる。
- ④各種委員会の活動については、ホームページ等を利用して会員等に十分周知できるよう改善を図る必要がある。
- ⑤教育会と各地区教職員会（北部、中部、南部）との関係については、公益法人化された経緯をふまえ、互いの活動の充実を目指し、相互に活動内容を確認し合うなど、連絡協議を行うことが望ましい。
- ⑥教科等教育研究会とは、助成金を交付していることや共催事業を行っていること等を踏まえ今後も良好な関係を維持しつつ、総研修会企画連絡会等の場を通して、教育会の財務適正化に向けた取組への理解と協議を重ねていくことが重要である。
- ⑦教育会ホームページについて、周知や活用の充実を図りたい。ただし、リンク先については、例えば市町村立学校並びに県立学校は設置者の認可が必要であること、民間企業等とはリンクしないことなど、十分リンク先を吟味、検討していく必要がある。
- ⑧経費の適正化に向け、旅費の扱いについては、さらに調査・研究を要する。

(2) 小中会議室の適正な貸与基準(使用料)についての検討

- ①小中会議室の適正な貸与基準（使用料）については、小中会議室ともに、使用料を50円増額し、冷暖房費については据え置きとする。

(3) 教科等教育研究会主催事業への適正な助成についての検討

- ①助成金が事業全支出を上回らない。
- ②購入物品で繰り返し使用できるものは継続して使用し経費節減をしたり、必要物品の内容・品質・数を吟味したりして経費の適正化に努める。
- ③助成金を参加者等（個人及び団体等）への補助金等にあてない。

(4) 養護教諭、栄養教諭・栄養職員、事務職員、司書職員等少数職種の先生方が、さらによりよく参画できる具体的な仕組み作りの検討

- ①少人数職種の教職員についても、他の教職員等と同様に、その職能を向上させ、子どもにかえる研修ができる機会を積極的に保証したりつくったりしていく必要がある。また、そのためにも、上伊那教育会と上伊那校長会との連携をさらに深め、よりよい研修ができる基盤を整理していく必要がある。

(5) 上伊那教育会リーフレット作成についての検討

- ①リーフレットは、3年に一度印刷し、全教職員及び外部へ配布とする。2年目・3年目は、初任者及び郡外から上伊那に赴任した教職員、外部への配布とする。
- ②リーフレットの用紙は、現在のものより薄いものとし、二つ折りの形とする。以上は令和2

年度版より実施。次回3月3日の総会で代議員を通して各校へ配布する。

※ 質疑、応答なし

※ 答申をうけての会長所信表明

- ・あり方委員会、公益法人未来継承委員会におかれては、私の諮問に対して、調査・資料収集を行い様々な視点から検証を加えてくださった。会員のためのよりよい教育会の方向をわかりやすく的確な答申を行ってくれた。次年度以降の事業計画に生かしていきたい。

3 「令和2年度に向けた上伊那教育会諸事業の改善・充実に関する意見・要望等について」

(堀米幹事長)

一の職能研修事業については、おおむね良いとのご意見をいただいている。1. 5日開催、3大研修についてはその意義について触れた意見を多数いただいた。中でも哲学研修には、子どもの見方を示してくれる研修や講演は今後も大切にしたいといった意見があげられている。委員選出のあり方や研修への参加の仕方についての更なる工夫を求める点もお寄せいただいた。

県外教育関係機関研修については、更に参加しやすい期日を願う声もあった。次年度に向けて日程等検討をしていきたい。

会誌発行事業では、内容精選の声をいただくと共に、貴重な情報交換の場となっているとの声を寄せていただいた。雑誌「上伊那教育」の発行では、毎回特集が組まれていて楽しみにしている、先生方の体験や思い、考えなどを知る貴重な機会となっているといった意見が、郡内の半数近くの学校からあげられている。今後も会員の要望に応じて情報を掲載していきたい。

二の児童生徒育成事業については先生方の負担軽減につながる検討の声を寄せていただいた。児童の励みになっている点も踏まえ、データ化やその活用のあり方について改善の方向を探っていく。

展覧会・発表事業では審査や準備、発表会の期日等について様々なご意見をいただいた。必要に応じて実施時期や時間・会場等の検討をしていきたい。

夏休み映画鑑賞会については、次年度は会場確保ができないために実施できないが、大変好評なので、今後のあり方について検討していきたい。

※ 来年度の方向について、幹事長提案

各校において事業の大切さを会員に広めていただいたり、積極的な声かけをしていただいた成果が先ほどのまとめにも示されている。今年度のテーマである『自ら求め 共にあゆむ』に即して、それぞれの学校が教育会の事業にどのような参加の方法をとったのか、代議員の皆さんが努力されたことについて、また今後の教育会の諸事業をこのように変革してみてもといったアイデアを出し合うなど、教育会のさらなる活性化にむけての意見交換をお願いしたい。お近くの先生方で自由に討論していただき、キーワードとなる言葉や文を書き留めていただきたい。書いていただいたものは、本総会で交わされた意見として掲示し、今後の参考にしたい。

※10分間討議(3～5人でグループをつくり以下の柱にそって討議を行う)

柱1 三大研修(哲学 文学 授業)のあり方や運営の方法
意義や価値 改善の方向

柱2 総研修会『仰望の日』の運営のあり方 講師の選定 午後に行われる教教研について

柱3 地域への還元・貢献的な要素の事業 郷土研究講習会 体験スクール 映画鑑賞会の価値

柱4 平和事業 少年の塔慰霊祭や環境整備作業の継続の方法や意味、価値の広報のあり方



※正副会長による指名で2グループが発表

①手良小 伊藤代議員

- ・年度の途中で、来年度行いたい研修や事業をつのることで、入れ替えが起り前向きな姿勢が生まれるのではないかと。

②伊那西小 依田代議員

- ・会員離れの現実。事業を知らない方へ、事業の還元を知らせるにはどうすればよいか考えた。郷土研究部の発表会は勉強になる。少年の塔についても同じことがいえる。具体的な打開策については出なかった。



※会長総括

- (1) 代議員のみなさんのおかげで教育会の諸事業が成り立っていると感じている。
- (2) 代議員のみなさんが、どんな思いで事業への参加参画を会員へ伝えているのかが大切だと感じる。
- (3) どのように会員へ事業の内容を広報していくのかについては、今後も大事に考えていく。
- (4) 会員のニーズ、若い先生方が教育会に何を求めているのか、どんな教育会を望んでいるのかを知り、事業計画に生かしていく。
会員のニーズに応えられるようにするための教育会のあり方について、本日のようなディスカッションしていくことが教育会に参加参画することにつながる。

閉会の言葉 小澤徳夫 副会長

各学校では1年間のまとめと次年度の方向を考える時期になったと思われる。教育会でも、一年間の事業がほぼ終了し、各委員会等、まとめの時期となっている。そんな中行われた郷土研究部専門委員会の発表では、かつての教え子も参加するなど多くの地域の方が参加してくれた。私たちの研究に対する地域の方の関心の高さがうかがえた。学び続ける教師の姿が大切であることと、次の世代へつないでいくことの大切さを感じた。

教育会の本年度の反省をもとに、来年度への課題と重点について議論いただいた。意見交換では代議員として自ら一年間の歩みを振り返っていただきながら、教育会に期待するものや事業の活性化について話し合っていた。不易なるものを大事にしながら、出された意見を参考に可能な限りこれからの教育会の事業に生かしていきたい。2月になる。まとめと引継ぎの学期。代議員の仕事は年度末の最後の最後まで途切れることなく続き、また、年度当初の選挙や発足までの間お世話にならなければならない。気の休まることがない日々が続くが、身体を大切にしながら日々の仕事を続けて欲しい。



